



あざれあにおいて静岡県栄養士会定時総会を執り行いました。総会当日は静岡県健康福祉部健康局健康増進課課長 川田敦子氏、静岡県看護協会会長 松本志保子氏、静岡県給食協会会長 加藤行啓氏、静岡県健康づくり食生活推進協議会会長 渡邊良子氏をお迎えし、ご祝辞を賜りました。また、栄養指導功労者として以下26名の会員が表彰されました。石川県能登半島地震で幕を開けた2024年。静栄DAT（静岡県栄養士会災害支援チーム）は災害支援へと派遣され、静岡県栄養士会新井会長より静栄DATスタッフへ感謝状が授与されました。（上部写真）



静岡県栄養士会会長表彰（順不同）

佐野順子	飯田洋美	奥津和予子	大庭紀子	内田由花	鈴木美紀
戸井口淳子	中村貴子	内田理恵	鈴木行奈	藤沢江美	平賀晶子
日置朝子	増田真由美	大瀧裕子	坪井 恵	芹沢秀巳	須長ますみ
磯野和栄	増田成子	山崎富美子	中村英子	伊奈恵子	加藤昌代
青野真奈美	岩田圭子（代表謝辞）				

議事

植田知里議長の進行により全ての議事案について承認されました。役員改選により本総会を以って新体制（2024～2025年度理事、2024～2027年度監事）となりました。昨年度には事業が見直され、今年度は新規事業も展開されます。事業を通して県民の公衆衛生の向上、栄養士・管理栄養士の資質向上にと邁進して参ります。

講演①

「静岡県の健康づくり施策

－第4次静岡県食育推進計画を中心に－

講師：静岡県健康福祉部医療健康局健康増進課課長 川田 敦子氏



講演冒頭には本県の健康課題に触れられ、全国に比べ脳血管疾患による死亡が多く、静岡市や県東部ではメタボリックシンドローム該当者が多いことなどが挙げられました。食育推進計画では、脳血管疾患の要因となる高血圧に着目した取り組み（お塩のとりかたチェック、野菜マシマシキャンペーン等）や栄養バランスのとれた惣菜（しずおか健幸惣菜）の普及などが紹介されました。また、行政のみの計画に留まらず、産学官連携による商品開発・販売（健幸総菜、野菜マシマシギョウザ）も行われ、食育の推進は知識の普及だけでなく食環境づくりにまで及んでいました。

講演②

「能登半島地震の災害時活動報告と

今後の災害に対する情報共有」

講演：静岡県栄養士会DATリーダー、スタッフ自治体派遣者

座長：静岡県栄養士会理事 渡邊 潤氏

静栄DAT（静岡県栄養士会災害支援チーム）、自治体（行政管理栄養士）の立場から災害派遣活動について報告がありました。被災者の食・栄養を支援する中で直面した問題やその際に感じた想いが語られました。物資の偏り（食物繊維・たんぱく質不足、糖質・塩分過多等）、避難所による物資や炊き出しの格差、被災者自らが栄養バランスを考えて物資を選択することが難しい等、栄養バランスを整えることはなかなか困難なようでした。また、短い派遣期間のなかで、次の派遣者や他団体との引継ぎや情報共有も課題として挙げられました。円滑な支援のためにマニュアルやルールが必要ではあるものの、被災者のためにと支援者の想いだけでそれらを整備するのではなく、支援全体や多団体との連携に配慮が必要といった振り返りもありました。「その人をどうしたいかではなく、その人がどうなりたいか、どうなっていくのかを見守り支援する（共助）。その人だけでなく、その市町、県全体の支援である。」石川県栄養士会担当者の言葉がとても印象的でした。

商品展示

15社の賛助会員に商品展示の協力を戴きました。新型コロナウイルス感染の蔓延を契機に働き方が見直され、アフターコロナでは賛助会員の継続や休日出勤での商品展示が厳しいといった声もある中、多くの賛助会員にご参加戴きました。心より御礼申し上げます。

